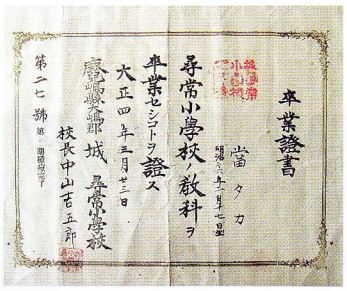
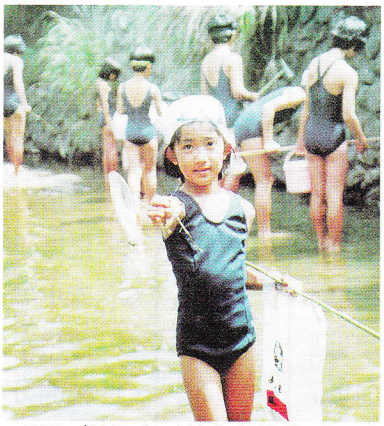
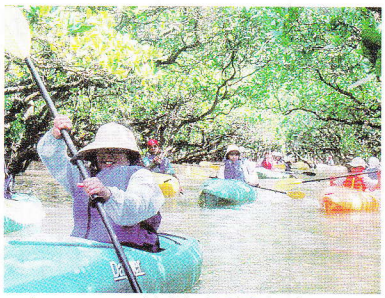
教 育

西暦	年号	で き ご と	コ メ ン ト
1875	明治 8	◇ 市簡易小学校ができる ◇ 山間郷校ができる	■ 「簡易小学校」 「郷校」
1876	9	◇ 川内字前川７番と８番に川内小学校ができる	「小学校」
1879	12	◇ 山間郷校が下等小学校して発足する	「下等小学校」
1881	14	◇ 山間下等小学校の分校が西仲間にできる	「尋常小学校」
1886	19	◇ 「小学校令」により川内小学校は川内簡易科小学校となり、山間下等小学校（３年制）は山間簡易科小学校（３年制）となる ◇ 「小学校令」に基づき西仲間尋常小学校（４年制）ができる ◇ 明治19年～25年頃の間、川内簡易科小学校の見里分教室があった。	「簡易科小学校」 等については「教育制度の移り変わり」の項（233～235ページ）参照
1893	26	◇ 明治26年～44年頃の間、東仲間尋常小学校と城尋常小学校ができる。	■ 川内簡易科小学校がこの頃までにどうなったかは不明
1899	32	◇ 市尋常小学校（４年制）ができる	
1902	35	◇ この頃に西仲間尋常小学校は、高等科が併設されて西仲間尋常高等小学校になる	■ 明治37年に出されている教員任用辞令には、西仲間尋常高等小学校とある
1908	40	◇ 尋常小学校が６年制となる	■ 山間簡易科小学校は明治30年には存続していたが、明治45年には既に同校は山間尋常小学校になっていた。しかし何年に尋常小学校になったかは不明
1910	43	◇ 西仲間尋常高等小学校の役勝分教場ができる	
1911	44	◇ 城尋常小学校和瀬出張所ができる	
1918	大正 7	◇ 東仲間尋常小学校と城尋常小学校が合併して、摺勝610番地（現在地）に東城尋常小学校ができる ◇ 東城尋常小学校の和瀬分教場ができる	
1924	13	◇ 東城尋常小学校に高等科を併設する	 卒業証書（大四）
1925	14	◇ 東城尋常高等小学校の出火により職員室並びに普通教室一棟と裁縫室が焼失する ◇ ９月、暴風雨により東城尋常高等小学校の校舎が倒壊する	
1927	昭和 2	◇ 東城尋常高等小学校に東城青年訓練所が併設される ◇ 山間尋常小学校が高等科の併設により山間尋常高等小学校になる	■ この年までは、山間尋常小学校の卒業生は、西仲間尋常高等小学校の高等科へ進学
1935	10	◇ 西仲間尋常高等小学校に住用青年学校が併設される ◇ 住用青年学校市分校ができる ◇ 東城青年訓練所が東城青年学校となる	
1937	12	◇ 山間尋常高等小学校、西仲間尋常高等小学校、役勝分教場が合併して住用尋常高等小学校ができる ◇ 住用尋常高等小学校の校舎落成式が挙行される	

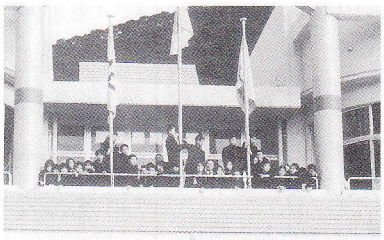
西暦	年号	で き ご と	コ メ ン ト
1938	昭和 13	◇ 和瀬分教場が和瀬分校と改称される	
1940	15	◇ 市尋常小学校に高等科が併設され、市尋常高等小学校になる	
1941	16	◇ 村内の各尋常高等小学校が国民学校となる	■ 尋常科（６年）は初等科（６年）となる
1945	20	◇ ８月15日、太平洋戦争が終わる	
1946	21	◇ 日本政府から行政分離され、米軍政下に入る	
1947	22	◇ 青年学校が廃止になる	
1947	22	◇ 東城国民学校に東城実業学校を併設する	■ １年で廃止
1948	23	◇ 村内の各国民学校が６・３・３制の小学校となる	■ 本土より１年遅れ
		◇ ６・３・３制の実施により、新制中学校として東城中学校が東城小学校に併設され、住用中学校が住用小学校に併設され、住用中学校市分校が市小学校に併設される	
		◇ 洪水により越次橋（こくじばし）流失のため山間に住用小学校の分教場ができる	老いては孫に従え
1952	27	◇ 住用小学校の新校舎が完成する	孫がおじいさんを引っ張って競争する「老いては子に従え」。山間・戸玉の合同運動会で（昭51）
		◇ 住用中学校市分校が本校に昇格し、市中学校となる	
		◇ 琉球教育法が公布される	
		◇ 教育委員の公選による選挙が行われる	
1954	29	◇ 奄美群島の日本復帰に伴い，日本の教育委員会法が適用される	■ 昭和28年12月25日に日本復帰
		◇ 東城小学校のブロック校舎が完成する	
1955	30	◇ 市小学校のブロック校舎が完成する	
1956	31	◇ 住用小学校のブロック校舎が完成する	■ ブロック積み平屋根２棟
1957	32	◇ 和瀬分校の校舎が完成する	
		◇ 東城小学校の40周年記念式典が行われる	
1958	33	◇ 住用小学校の30周年記念式典が行われる	
		◇ 市中学校のブロック校舎が完成する	
1959	34	◇ 東城小学校のブロック校舎が完成する	
1962	37	◇ 教育委員が3人制から5人制となる	
		◇ 住用中学校の校舎が完成する	「宝つり」を楽しむ山間・戸玉の皆さん。山間・戸玉の合同運動会で（昭51）
1963	38	◇ 東城中学校の校舎が完成する	
1966	41	◇ 市小学校の創立90周年記念式典が行われる	
		◇ 住用小学校の屋内体育館が完成する	
		◇ 村内の小中学校で完全給食が実施される	■ 学校給食開始
1967	42	◇ 住用中学校が小学校との併設を解消し，中学校として独立校となる	
1969	44	◇ 東城小中学校の屋内体育館が完成する	

教 育

西暦	年号	で　き　ご　と	コ　メ　ン　ト
1970	昭和 45	◇ ２カ年事業で児童生徒の机と腰掛けをスチール製にすることに着手する（昭和46年終了）	元気いっぱいの東城小の児童たち。運動場で（昭60）
1971	46	◇ 住用中学校のプールが完成する	
1971	46	◇ 災害復旧事業として住用中学校の特別教室・図書室自転車置場・住用小学校の用務員室が完成する	
		◇ 中央公民館が開館する（８月１日）	■ 建物の完成は３月31日
		◇ 教育委員会事務局が役場から中央公民館へ移転する	■ ８月１日
1972	47	◇ 住用村教育振興協議会が発足する	村内小学校合同の鼓笛隊が村民体育祭に出場（平７）
1973	48	◇ 住用小学校職員用として初めて教員住宅が完成する	
		◇ 田んぼを買い上げ埋め立てて造った村総合グラウンドが完成する	
1974	49	◇ 中央公民館専任として館長と職員２名を置く	
		◇ 市小中学校の屋内体育館が完成する	
1975	50	◇ 市小学校の百周年記念式典が行われる	
		◇ 市小中学校の職員室校舎が完成する	
		◇ 西仲間児童館が完成する	
1976	51	◇ 東城小中学校の給食室が完成する	 川に親しむ東城小生たち。城の金久田川で（平８）
		◇ 住用小学校の特別教室が完成する	
		◇ 村内の各学校に主任を置く（学校管理規則の改正による）	
		◇ 住用中学校の屋内体育館が完成する	
		◇ 住用中学校の独立10周年記念式典が行われる（体操模範演技のアトラクションがあった）	
		◇ 住用村学校保健会が発足する	
1977	52	◇ 住用村学校給食運営協議会が発足する	
		◇ 住用小学校の給食室が完成する（鉄筋造り）	
1978	53	◇ 住用中学校の特別教室が完成する	
		◇ 派遣社会教育指導主事を置く（山方主事着任）	■ 県が人件費を負担
		◇ 市小中学校のプールが完成する	住用小学校の新入学生たち（平９）
		◇ 住用小学校の体育館増設工事が完了し、渡り廊下が完成する	
1979	54	◇ 東城小中学校の運動場が完成する	
		◇ 東城小中学校で60周年記念式典が行われる	
		◇ 東城小中学校のプールが完成する	
1980	55	◇ 住用小学校の給食室への渡り廊下が完成する	
		◇ 大島地区中学校体育連盟相撲大会が住用中学校で開かれる	
		◇ 東城中学校の体育館が完成する	

西暦	年号	で　き　ご　と	コ　メ　ン　ト
1981	昭和 56	◇ 東城小中学校の相撲道場が完成する	
		◇ 市小中学校の体育館増設工事が完了し、附属施設も完成する	
1981		◇ 第1回住用村水泳大会が開催される	
		◇ 東城小中学校のテニスコートが完成する	
1982	57	◇ 市小中学校の便所を水洗に改修する	
		◇ 東城校区コミュニティセンターが完成する	
		◇ 東城中学校が男子庭球地区大会で団体と個人の部で優勝する（県３位）	市の米つき踊り。市小中学校の学習発表会で（平９）
		◇ 市校の相撲道場が完成する	
		◇ 12月、教育委員会がサモト遺跡（城字池平（ぐすく いけびろ））の事前調査を行う	
1983	58	◇ 東城中学校が地区大会の中学校庭球の部で優勝。個人の部で１位と２位になる	
		◇ 東城中学校が大島地区中学校バレーボール女子の部で優勝する	カヌーの体験学習をする小学生たち（平13）
		◇ 東城小中学校のＰＴＡが全国表彰を受ける	■ ７月12日～７月20日
		◇ サモト遺跡の発掘調査を行う（熊本大学　白木原教授ほか４氏に指導を依頼）	
1984	59	◇ 村民プール・弓道場・クラブハウス・運動公園が完成する	
		◇ 児童数の減少により和瀬分校が休校となる	
		◇ 県スポーツ少年団の空手競技で東城スポーツ少年団が２年連続で団体優勝する	
1985	60	◇ 東城スポーツ少年団が県教育委員会に表彰される	
		◇ 第１回住用村文化祭が開催される	
		◇ 教育委員会が公民館から役場庁舎へ移転する	東城中学校の卒業式を終えた卒業生たち（平10）
1986	61	◇ 住用中学校の校門の整備工事を行う	
		◇ 和瀬分校休校中のところ開校となる	
1987	62	◇ 市小学校創立 111周年記念碑が建てられる	
		◇ 住用小学校が昭和61年度学童水泳優秀校となる（日本水泳連盟による表彰）	
		◇ 学校給食でメラミン食器の使用をやめ、他の安全な食器に切りかえる	
		◇ 村内各学校に国旗・校旗・村旗掲揚台を設置する	
		◇ 住用小学校50周年記念式典が行われる	郷土料理づくりの体験学習をする小学生たち。中央公民館の調理室で（平13）
1988	63	◇ 住用小中学校の水洗トイレを改修する	
1989	64	◇ 第1回オレンジジョギング大会が開催される	

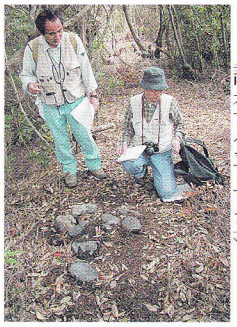
教 育

西暦	年号	で き ご と	コ メ ン ト
1989	平成 1	◇ 東城小学校の体育館の床を張り替える	
		◇ 住用中学校の体育館の床を張り替える	
1990	2	◇ 台風19号による水害で東城小中学校と住用中学校の体育館が床上浸水。備品等が水に漬かり廃棄処分。その額3千532万1千円	■ 9月18日
		◇ 中央公民館1階部分が床上147cmの浸水で図書他各種備品が汚泥にまみれそのほとんどを廃棄処分する	■ 9月18日の台風19号のため
		◇ 市小中学校の渡り廊下が完成する	
1991	3	◇ 住用中学校の渡り廊下が完成する	
		◇ 和瀬分校の渡り廊下が完成する	
1992	4	◇ 市小中学校の教員住宅が完成する	
		◇ 第２回のサモト遺跡調査を行う（県文化財審議委員河口貞徳氏、熊本大学白木原教授ほか２氏に指導を依頼）	■ 5月11日～5月29日
1993	5	◇ 住用小学校の教員住宅が完成する	
		◇ 鹿児島大学付属小との交流体験学習事業が始まる	
1994	6	◇ 東城小中学校の校舎が完成する	
		◇ 市小学校の体育館の床張り替えが完了する	
		◇ 住用小学校と住用中学校の体育館への漏水防止塗装が完了する	
		◇ 市子供会が全国表彰の善行賞を受賞する	
		◇ 東城小中学校の新校舎落成式及び祝賀会が行われる	東城小中学校の新校舎の完成を地上と２階で喜び合う児童・生徒たち（平６）
1995	7	◇ 住用小学校の校舎が完成する	
		◇ 住用中学校のプールを解体する	
		◇ 新校舎建設のため住用小学校の旧校舎を解体する	
		◇ 市小中学校の体育館屋根の防水工事が完了する	
		◇ 事務局並びに各学校にファックスを設置する	
		◇ 住用小学校の校門改修工事が完成する	
		◇ 住用小学校の新校舎落成式及び祝賀会が行われる	
1996	8	◇ 住用中学校の校舎が完成する	
		◇ 住用中学校の校門が完成する	
		◇ 住用小学校に特殊学級を設ける（職員１名増配置）	
		◇ 各学校に給食用の冷凍庫を購入する（４台）	
		◇ 南部大島中学校バレーボール大会で東城中学校が優勝する	集団登校中の住用小学校の児童たち（平８）
		◇ 住用中学校の新校舎落成式並びに30周年記念式典と祝賀会を行う	

西暦	年号	で　き　ご　と	コ　メ　ン　ト
1998	平成　8	◇ 東城小中学校の創立 120周年を記念して84本の植樹を行う	
1997	9	◇ 第１回「三太郎峠歩こう会」が行われる（西仲間から旧国道⇒スタル俣(また)林道⇒三太郎峠⇒スタル俣林道⇒旧国道⇒東仲間のコース） ◇ 各小中学校にパーソナルコンピューターを導入する ◇ 住用小学校（下役勝の尾勝）と東城小学校（摺勝）の教員住宅を解体する ◇ 住用小学校のサーキットコース工事が完了する	■ 連合青年団・子供育成連絡協議会・教育委員会で共催。１月10日 スタートラインで出発の合図を待つ参加者（平14）
1998	10	◇ 市小中学校の教員住宅を解体する ◇ 東城小学校の教員住宅を解体する（川内） ◇ 名瀬市にある住用村学生寮を解体する ◇ 第１回住用村・長野県小川村との交流体験学習事業が実施される	
1999	11	◇ 住用・東城・市小中学校の給食施設の整備工事が完了する ◇ 鹿児島大学付属小学校との交流体験学習事業が終了する ◇ 西仲間教員住宅の浄化槽切り替え工事が完了する ◇ 東城小中学校の川内教員住宅の浄化槽切り替え工事が完了する ◇ 和瀬分校の浄化槽設置工事が完了する	 小川村でのソリ遊び（平15）
2000	12	◇ 第８回大島地区生涯学習推進大会の住用村大会が開催される	
2001	13	◇ 住用中学校の山間教員住宅の浄化槽切り替え工事が完了する	 小川村の友達を迎える市小学校の児童たち（平15）
2002	14	◇ 市小中学校の新築校舎が完成する ◇ 市小中学校の新築校舎の落成式及び祝賀会が行われる	
2003	15	◇ 奄美群島日本復帰50周年記念第57回県民体育大会奄美大会でカヌー競技と相撲競技が住用村を会場としして行われる ◇ 奄美体験交流館が完成し12月２日にオープンする。移動式室内土俵場を備える（延床面積３千370平方メートル[1,020坪]　総工費９億360万７千円　平成14年起工）	■ 10月22日完成 11月30日落成式。550人が出席
2004	16	◇ １月30日、大島地区自治公民館経営研究会が中央公民館で開催される	

西暦	年号	で き ご と	コ メ ン ト
2004	平成 16	◇ １月31日、大島地区「ふれあい読書フェスタ」が体験交流館で開催される	
		◇ 奄美体験交流館完成記念として、同館で全九州高等学校新人相撲選手権奄美大会が開催される（２月15日）	■ 住用村主催 奄美県体相撲競技開会式 体験交流館で（平15）
		◇ 奄美大島中学校総合体育大会（相撲競技）が体験交流館で開催される	
		◇ 大島地区スポーツ少年団競技別交歓大会（相撲競技）が体験交流館で開催される（７月25日）	
		◇ 小川村の教育長・教育委員・引率者・児童32名が来村し、交流体験学習を行う	■ 7月27日～７月30日
		◇ 大島地区「基礎学力定着」研究協力校公開研究会が行われる（10月28日）	
		◇ 第１回全九州高等学校新人相撲選手権奄美大会が体験交流館で開催される（12月26日）	■ 九州高等学校体育連盟主催
2005	17	◇ 第９回「三太郎峠歩こう会」が行われる。例年の旧国道・スタル俣林道のコースの外に、三太郎道（旧山道）コースも設ける（１月23日）	■ 61人が神屋側から東仲間側まで三太郎道を歩き通す 三太郎道については第１部39～43ページ参照

奄美体験交流館の完成まで


切り崩して敷地となる松崎鼻の地質調査（平十三）

敷地の造成がかなり進む（平十四）

地鎮祭（平十四）

地鎮祭の参列者（平十四）

側壁造りが進む（平十五）

屋根を支える鉄骨が乗る（平十五）

完成に近づく（平十五）

国道五八号から見た全景（平十五）

内海をバックに高みからの全景（平十五）

教育制度の移り変わり

１８７２年（明治　５）　「学制」と「小学教則」を公布し、次のように定める：

１．学制と履修年限を次の２種とする：

下等小学（４年　　６～９歳）

上等小学（４年　１０～１３歳）

２．小学校を次の５種に分ける：

尋常小学・村落小学・貧人小学・小学私塾・幼稚小学

山間のナガタリ（字中里）にある山間小学校跡地に建つ記念碑

（注）「郷校」には幾つかの種類がある：

① 江戸時代に藩で設けた藩の武家を対象としたもの

② 藩の領民を対象に藩主や代官によって設けられたもの

③ 武家の他に領民の入学を認めるもの

④ 幕末から明治維新にかけて民間有志の設立経営によるもの（近代の小学校の前身といわれる）

以上の４種類のうち「山間郷校」は④に最も近いようである。

「山間郷校」は「学制」・「小学教則」分類の小学私塾として創設され、後に村落小学に移行したものだろうか。

１８７８年（明治１１）　明治５年公布の「学制」を廃止。

各府県または各地方で多様な小学校の課程編成がある：

① 下等小学・上等小学の名称を用いるもの

② 普通科・高等科とするもの

③ 尋常科・高等科とするもの

④ ４・４制、３・３制、３・２・３制、３・３・２制、６・２制など履修年限も様々であった。

その外に村落小学教則など簡易な課程を別に設ける地方もあった。

１８８１年（明治１４）　「小学校教則綱領」が定められる。これによって明治１１年来、全国まちまちに行われていた様々な教育課程が次のように統一された：

小学校は次の３段階編成（３・３・２制）となった：

初等科（３年）・中等科（３年）・高等科（２年）

１８８５年（明治１８）　「教育令」が改正されて、社寺の軒下、民家の一隅でもよい「小学校教場」を設けても良いことになった。

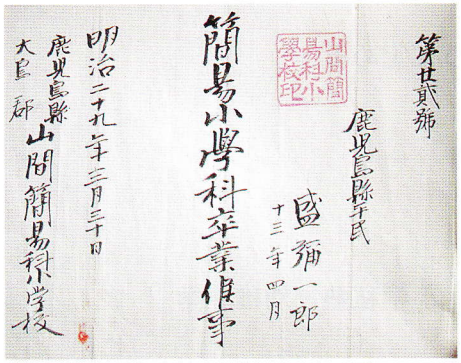
１８８６年（明治１９）　「小学校令」と「小学校ノ学科及（および）其（その）程度」が公布され、次のように定められた：

小学校の課程を次の２段階とする：

尋常（４年）・高等（４年）　６歳～１４歳

小学簡易科（修業年限３年以下）の設置を認める：

簡易科小学校は尋常小学校に代用できるものとした。これは明治１８年改正の教育令に示されている「小学教場」に相当するもので、当時の地方財政の窮乏に対処したものである。小学簡易科の授業は１日２，３時間。経費は区長村が負担し、授業料は徴収しないこととした。


第廿貳號
鹿児島縣平民
盛彌一郎
十三年四月
山間簡易科小學校印
簡易小學科卒業證書
明治二十九年三月三十日
鹿児島縣
大島郡
山間簡易科學校

明治２９年３月３０日付の山間簡易科小学校の卒業証書。簡易小学科の修業年限は３年。卒業者、盛　彌一郎氏は盛島秀史氏の父

（注）この小学簡易科の設置が認められることになって、そのときまで「市簡易小学校」「山間郷校」（「山間下等小学校」）「川内小学校」と呼ばれていたものが、「小学校令」に従った正式名称でそれぞれ「市簡易科小学校」「山間簡易科小学校」「川内簡易科小学校」とされたと考えられる。

１８９０年（明治２３）　明治１９年公布の「小学校令」で認められた小学簡易科が廃止される。

（注）小学簡易科が廃止された後も、各校が尋常小学校（修業年限４年）になる明治３２年頃までは、修業年限３年のまま、校名も「市簡易科小学校」「山間簡易科小学校」「川内簡易科小学校」のままであったと考えられる。

１９０７年（明治４０）　小学校の尋常科（尋常小学校）が４年制から６年制になり、高等科（高等小学校）が４年制から２年制となる。

１９２６年（昭和　１）　青年訓練所が全国市町村に創設される。男子勤労青年に主として軍事教育を行った学校。1935年（昭10）に実業補習学校（1893年〔明26〕創設）と併合され青年学校となる。

１９３５年（昭和１０）　青年学校が、実業補習学校と青年訓練所を併合して作られ全国市町村に設置される。普通科（２年）は尋常小学校卒業者を対象にし、本科（５年）は普通科修了者および高等小学校卒業者を対象とし、小学校卒の勤労青年に産業実務教育・普通教育・軍事教育を行った。1939年（昭14）に義務制となる。1948年（昭23）廃止。

１９４１年（昭和１６）　尋常小学校と高等小学校を一括して国民学校とし、初等科（６年）・高等科（２年）の修業年限とする。皇国民の基礎的錬成を目的とした。

１９４７年（昭和２２）　６・３・３制の施行により国民学校初等科（６年）は小学校となり、国民学校高等科（２年）は廃止された。小学校に続く義務教育の学校として、新たに中学校（３年）が発足した。大島郡では、６・３・３制の実施は１年遅れ

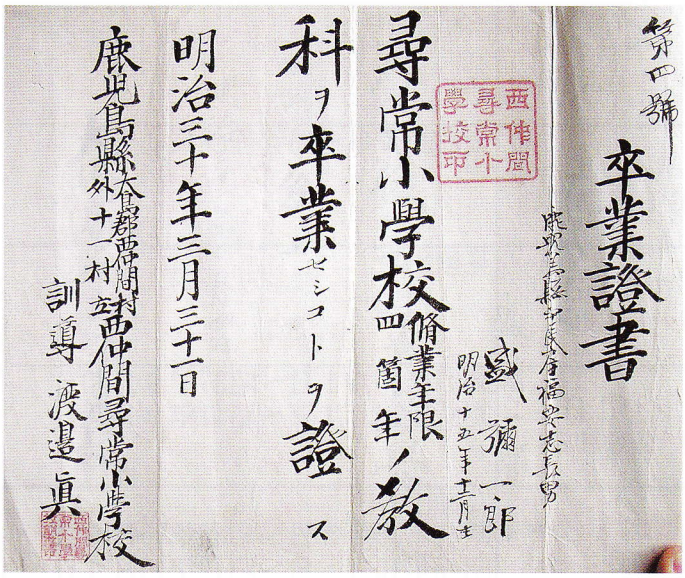
て昭和23年からとなる。

１９４８年（昭和２３）　青年学校が廃止される。

以上は、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室江幡氏から送って頂いた資料等を参考にして作成した。

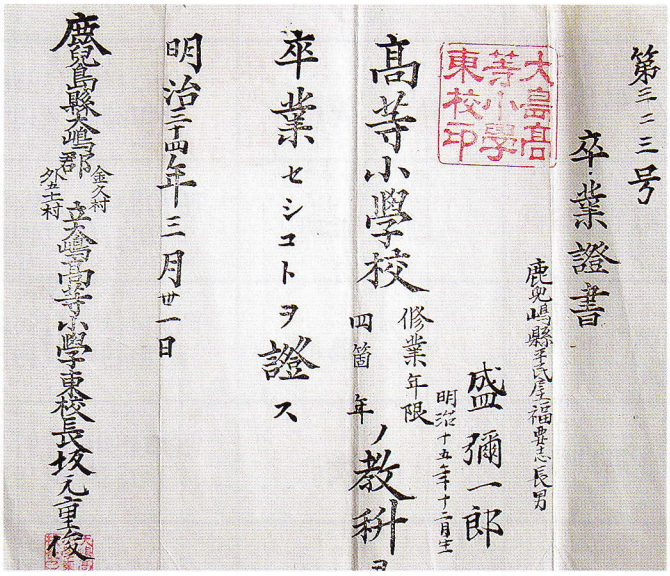
明治後期の卒業証書・教員免許状・教員任命辞令

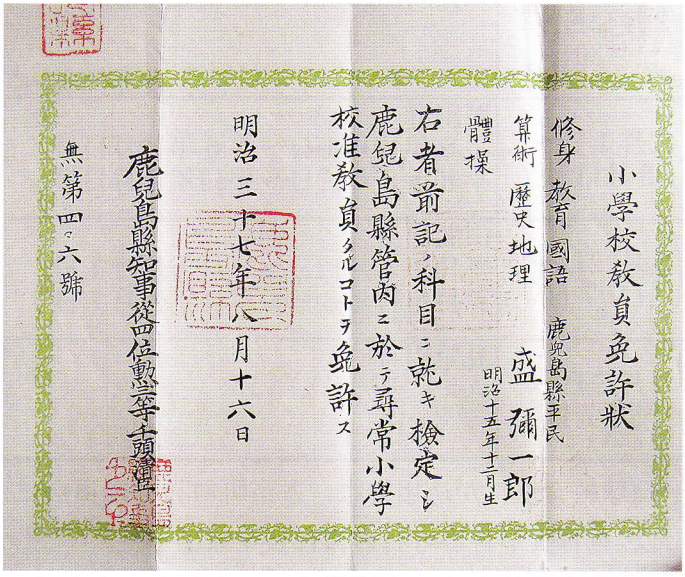
山間の盛島秀史（ひでふみ）氏の父、盛　彌（や）一郎氏（明治15年〔1882〕生まれ）にかかわるもので、戦時中は山中の疎開小屋に移され焼失を免れた。


第四號
卒業證書
鹿兒島縣平民屋福安志長男
盛彌一郎
明治十五年十一月生
西仲間尋常小學校印
尋常小學校修業年限四箇年ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス
明治三十年三月三十日
鹿兒島縣大島郡西間村西仲間尋常小學校
訓導　渡邊眞

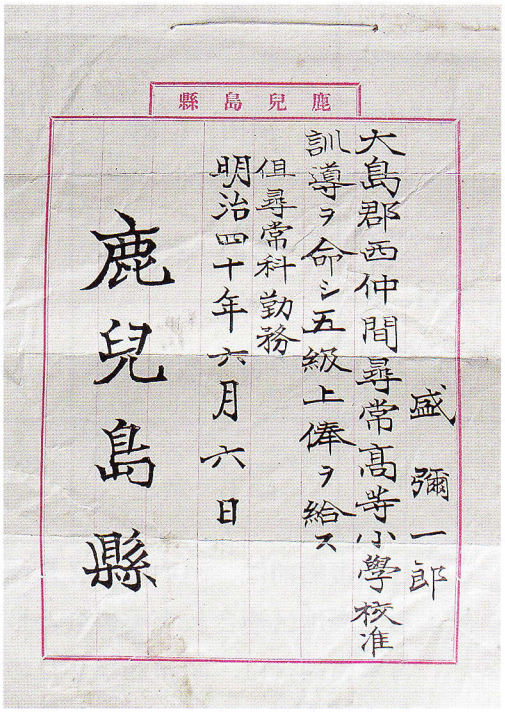
▲　盛氏は明治29年３月に山間簡易科小学校（修業年限３年）を卒業し、同年４月に西仲間尋常小学校４学年に編入学し、明治30年に同校を卒業した。当時の尋常科の修業年限は４年であったから、山間簡易科小学校の３年と西仲間尋常小学校の１年であわせて４年となり、尋常科卒業となった

▼　当時は尋常科（４年）の上に高等科（４年）があった。高等小学校は大島に２校あった。盛氏は名瀬にあった大島高等小学校東校に入学した


第三二三号
卒業證書
鹿兒島縣平民屋福安志長男
盛彌一郎
明治十五年十一月生
大島高等小學校東校印
高等小學校修業年限四箇年ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス
明治三十四年三月廿一日
鹿兒島縣大島郡金久村外五村
大島高等小學東校長坂元重俊


小學校教員免許狀
修身　教育　國語　鹿兒島縣平民
算術　歴史　地理　盛彌一郎
體操　明治十五年十一月生
右者前記ノ科目ニ就キ檢定シ鹿兒島縣管内ニ於テ尋常小學校准教員タルコトヲ免許ス
明治三十七年八月十六日
鹿兒島縣知事從四位勲等千頭清臣
無第四〇六號

▲　東校から大島農学校に進学。明治37年検定に合格し、小学校准教員の資格を取得する


鹿兒島縣
大島郡西仲間尋常高等小學校准訓導ヲ命シ五級上俸ヲ給ス
但尋常科勤務
明治四十年六月六日
盛彌一郎
鹿兒島縣

▶　尋常高等小学校となった母校で、代用教員を経て准訓導に任命されたときの辞令

歴代教育長

代	氏　名	在任期間	備　考
初代	寺師　忠夫	昭和27年（1952）６月～ 昭和28年（1953）３月	名瀬地区連合教育長が兼任
第２～３代	鬼塚　真臣（まさおみ）	昭和28年（1953）４月１日～ 昭和30年（1955）３月31日	昭28年４月１日～昭30年２月20日 昭30年２月21日～昭30年３月31日
第４代	嘉本　文夫	昭和30年（1955）４月１日～ 昭和31年（1956）３月31日	
第５代	有村　政治	昭和31年（1956）４月１日～ 昭和31年（1956）９月30日	大島教育事務局管理課長に委嘱
第６代	都成（となり）　重則	昭和31年（1956）10月１日～ 昭和33年（1958）９月30日	見里出身
第７～８代	上田　武義	昭和33年（1958）10月１日～ 昭和41年（1966）９月30日	昭33年10月１日～昭37年９月30日 昭37年10月１日～昭41年９月30日
第９～10代	屋宮（おくみや）　為市	昭和41年（1966）10月５日～ 昭和49年（1974）10月４日	和瀬出身 昭41年10月５日～昭45年10月４日 昭45年10月５日～昭49年10月４日
第11代	山下　文武	昭和49年（1974）12月25日～ 昭和53年（1978）12月24日	西仲間出身
第12～14代	石原　和眞（かずま）	昭和54年（1979）10月１日～ 平成２年（1990）９月30日	石原出身 昭54年１月２日～昭58年１月１日 昭58年１月２日～昭62年１月１日 昭62年１月２日～平２年１月１日
第15代	屋田（おくだ）　稲義（いなよし）	平成２年（1990）３月12日～ 平成５年（1993）11月30日	東仲間出身
第16～17代	柳瀬　賢治	平成５年（1993）12月１日～ 平成10年（1998）３月11日	城出身 平５年12月１日～平６年３月11日 平６年３月12日～平10年３月11日
第18～19代	碇　敏憲	平成10年（1998）３月12日～ 平成15年（2003）11月７日	山間出身 平10年３月12日～平11年11月７日 平11年11月８日～平15年11月７日
第20代	師玉（しだま）　敏雄	平成15年（2003）11月８日～ 平成19年（2007）11月７日	見里出身

日本復帰前は、昭和27年２月28日に施行された「琉球教育法」が適用され、各市町村教育委員会による名瀬地区連合教育委員会として発足し、名瀬地区教育長が各市町村の教育長を兼任した。

日本復帰後は、昭和29年４月の新年度から日本の「教育委員会法」を適用することになったため、それまでの連合区におかれた教育長は、各市町村単位におかれるようになった。

住用村歴代派遣社会教育主事

代	氏　　名	在任期間	勤務先 （平成17年３月１日現在）
初代	山方（やまがた）　博文（ひろふみ）	昭和54年（1979）４月１日～ 昭和57年（1982）３月31日	鹿児島市教育委員会 保健体育課
第２代	橋口　光徳（みつのり）	昭和57年（1982）４月１日～ 昭和60年（1985）３月31日	伊敷公民館
第３代	坂元　洋三（ひろみ）	昭和60年（1985）４月１日～ 昭和62年（1987）３月31日	
第４代	四元　一志（かずし）	昭和62年（1987）４月１日～ 平成元年（1989）３月31日	県立鹿児島南高等学校
第５代	西　　嘉一（かいち）	平成元年（1989）４月１日～ 平成５年（1993）３月31日	
第６代	野村　　修	平成５年（1993）４月１日～ 平成８年（1996）３月31日	鹿児島市立八幡小学校
第７代	小磯　俊彦	平成８年（1996）４月１日～ 平成11年（1999）３月31日	鹿児島市立清和小学校
第８代	松尾　和友	平成11年（1999）４月１日～ 平成14年（2002）３月31日	薩摩川内（さつませんだい）市教育委員会 祁答院（けどういん）支所
第９代	赤岩　道春（みちはる）	平成14年（2002）４月１日～ 平成17年（2005）３月31日	住用村教育委員会

平成１７年３月に赤岩道春氏が退任した後は、鹿児島県教育委員会の方針で派遣社会教育主事を市町村に配置しないこととなった。現在、他の市町村で配置されている主事も、平成18年度末で各市町村から学校現場等へ異動することになっている。

住用村歴代指導主事

代	氏　　名	在任期間	備　　考
初代	新村（にいむら）　秀男	平成４年（1992）４月１日～ 平成７年（1995）３月31日	
第２代	瀬戸山　稔	平成７年（1995）４月１日～ 平成10年（1998）３月31日	
第３代	勝久　満隆	平成10年（1998）４月１日～ 平成13年（2001）３月31日	
第４代	前田　和洋	平成13年（2001）４月１日～ 平成16年（2004）３月31日	
第５代	久保　和久	平成16年（2004）４月１日～	

住用村立 東城小中学校・和瀬分校

〔校章の由来〕

校章は、昭和23年に６・３・３制による東城中学校の発足にあたり、当時の大島中学校の宮城先生の図案により福山　力先生が校旗にあるような帽章を制定し、それを後に小中の校章に作りかえたものです。外側は、ペンと菊花で飾られ、花いっぱいの学校で勉学に励んでほしいという願いが込められています。

〔 校　訓 〕　自ら学ぶ（健康・誠実・勤労・好学）

東城小中学校

和瀬分校

校歌

作詞　重原　源隆
作曲　福島　豊彦

一
めぐる山脈　明けそめて
真白に輝く　たかばちの
高嶺仰ぎて　もろともに
集うわれらが　学やは
花なごんの　香ににおう
永遠の花ぞの　わが母校

二
内海の湖は　洋々と
太平洋に　水脈ひろげ
新しき道　世界にたずね
ゆるがぬ島ぬ　東城の
教えの庭に　風さそう
希望のいらか　わが母校

三
ゆたかにのびる　青田原
栄ゆく村の　幸ここに
愛と平和の　旗かざし
若人われら　手をとりて
共に励まん　朝夕に
文化のとぶら　わが母校

○　校区・学校の概要

校区は、住用村の北部にあたり、南西部は西仲間地区より６キロ、瀬戸内町より31キロ、北側は名瀬市より15キロ地点にあり、周囲を濃緑の山山に囲まれ、黒潮めぐる太平洋を望み、静かな内海を挟んで交通の便に恵まれた景色の大変によいところです。校区内には、リュウキュウアユがいる川内川やアマミノクロウサギの住むタカバチ山があります。

校区の方々は学校教育に関心が高く、諸行事に対しては集落ぐるみで取り組み、校区をあげて参加するなど大変協力的です。また、地域の子供は地域で育てるという気風も強く、大人が子供によく声かけをしています。

平成16年度の職員構成は、本校・分校兼務の校長・教頭各１名、小学校の県費職員７名、中学校の県費職員８名と村費職員の給食調理員３名・用務員１名の計21名です。学級数は、本校小学校４学級（３・４年、５・６年複式）中学校３学級、分校１学級の計８学級です。分校は和瀬集落内にあり、小学校４年生までが通います。現在４年生の１名が通学しています。校区内には東仲間・川内・摺勝・見里・城・和瀬の６つの集落があり、平成16年４月現在で校区内の世帯数は315世帯、総人口は725人です。

○　学校教育目標

確かな力と豊かな心をもち、夢や希望の実現に向けてたくましく生きる児童生徒の育成

目　指　す　学　校

責任を果たす学校　～安全に安心して楽しく学び，一人一人が確かな力をつける学校～

○　四季の花が咲き，清掃が行き届き，整備された，きれいな学校

○　自ら手だてを講じて実践・反省し，力をつける学校

○　家庭や地域と深く結ばれ，開かれた学校

目指す子供像

○ 自ら体を鍛える元気な子（体）

○ 進んであいさつする子　（徳）

○ 花を愛し進んで働く子（情・意）

○ 自ら学び，自ら考える子（知）

目　指　す　教　師　像

○ 基本的人権を尊重し，子供を愛する教師

○ 率先垂範して，子供とともに歩む教師

○ 研修に努め，授業を大事にする教師

○ 人間性豊かで信頼･尊敬･感謝される教師

○　校　訓

自　ら　学　ぶ

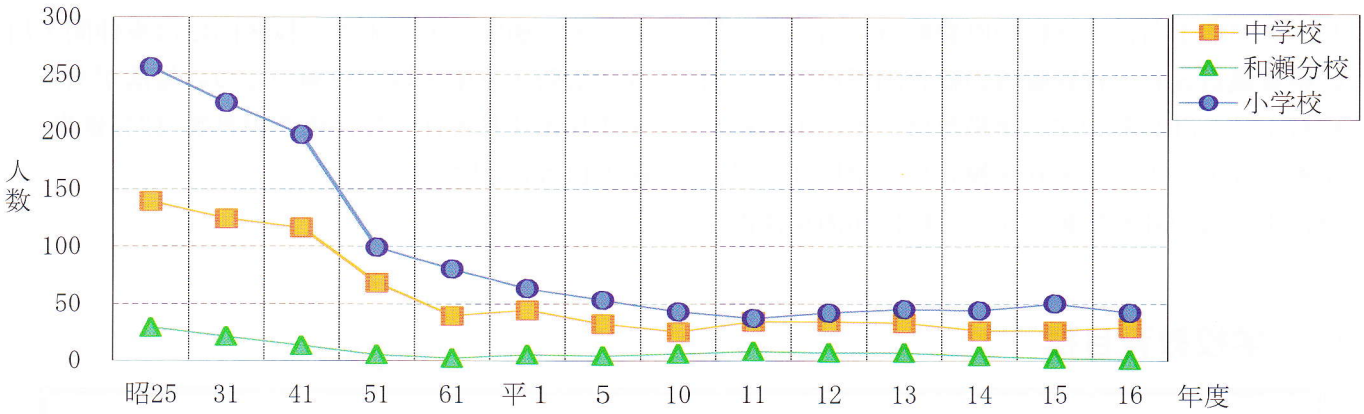
（健康・誠実・勤労・好学）

○　東城の子供の目当て

進んであいさつ　進んで仕事

自ら鍛える　頭と体

○　児童・生徒数の推移



区分＼年度	昭25	31	41	51	61	平1	5	10	11	12	13	14	15	16
小学校	256	225	197	99	80	63	53	43	37	42	45	44	50	42
中学校	139	124	116	68	39	44	32	25	34	34	33	26	26	29
和瀬分校	29	21	13	5	2	5	4	6	8	7	7	4	2	1

○　特色のある主な教育活動

小中共通の取り組み（地域と一体となった教育活動の推進）

① 伝統文化の継承（郷土教育）
② お年寄りとのふれあい
③ ボランティア活動
④ スポーツ活動
⑤ 「た」「か」「ば」「ち」運動の推進

ＰＴＡとの連携によるあいさついっぱい運動

た ・「体力・気力いっぱい運動」
　○　小中併設校のよさを生かし，小中一貫してバレーや相撲等を通じて小中異年齢集団による体力・気力づくりを図る

か ・「花いっぱい運動」
　○　進んで清掃に励み，花を愛し，根気強く草花を育てる児童生徒を育てる

朝のボランティア　花いっぱい運動の推進

ば ・「場に応じたあいさついっぱい運動」
　○　あいさつの心を理解し，自ら進んでその場に応じたあいさつや会釈を実行する

ち ・「知恵いっぱい・読書いっぱい運動」
　○　生涯学習の観点に立って読書に励み進んで発表し表現力を高める
　○　地域や家庭における親子読書の推進

家庭・地域との連携を生かした読書いっぱい運動

東城小中学校の本校の沿革

明治９年　川内字前川７番と８番に川内小学校を創立する

19年　「小学校令」により川内簡易科小学校となる

19～25年頃　川内簡易科小学校見里分教室があった

26～44年頃　東仲間尋常小学校と城尋常小学校ができる

44年４月１日　城尋常小学校の和瀬出張所を設置する

大正７年４月１日　東仲間尋常小学校と城尋常小学校と合併して住用村摺勝610番地（現在地）に「東城尋常小学校」ができる

和瀬に和瀬分教場ができる

５月20日　開校式を挙行する

13年３月29日　高等科を併設する

14年５月９日　火災により職員室普通教室一棟と裁縫室が焼失する

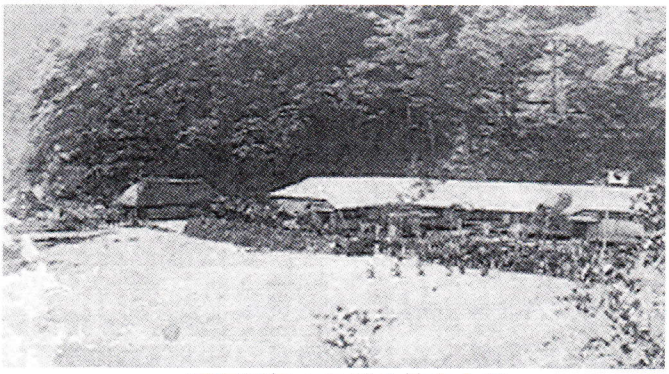
９月　暴風雨により校舎が倒壊する

昭和２年６月19日　青年訓練所を併設する

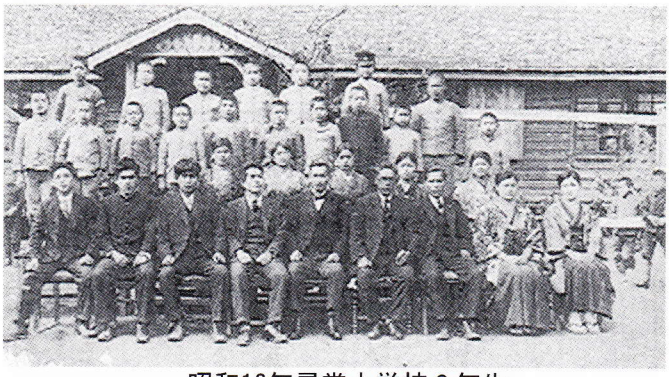
昭和３年度　高等科卒業生

７年　校庭を拡張する。その時栄富輔氏（泉二新熊氏の師）が、田を２反寄贈する

10年９月10日　青年訓練所が青年学校となる



昭和10年４月頃の校舎全景



昭和12年尋常小学校６年生

昭和16年４月１日　東城国民学校と改称する

昭和17年３月　東城国民学校高等科第１回卒業生

21年２月22日　日本政府と行政分離（米国の軍政下に入る）される

22年３月21日　青年学校が廃校、東城実業学校を併設する（昭23年３月廃校）

23年４月20日　学制改革により東城小学校と改称し、新制中学校を併設する

５月20日　住用村立東城中学校と命名し、30周年記念式を挙行する

校章を制定する

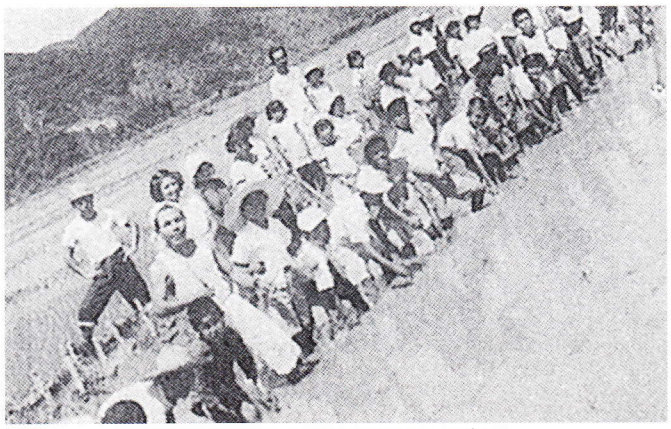
昭和25年３月４日　校歌を制定する（作詞：重原源隆・作曲：福島豊彦）

26年10月１日　中学校の独立専任校長が任命される

12月27日　中学校校舎（60.5坪）が完成する

28年12月25日　祖国日本へ復帰する

29年12月23日　小学校のブロック校舎（100坪）が完成する（国庫補助）



昭和30年頃の学校田での田植え

30年４月１日　中学校を小学校と併設し校長は兼任となる

昭和30年　城海岸での運動会

32年５月20日　東城校の設立49周年記念式を挙行する

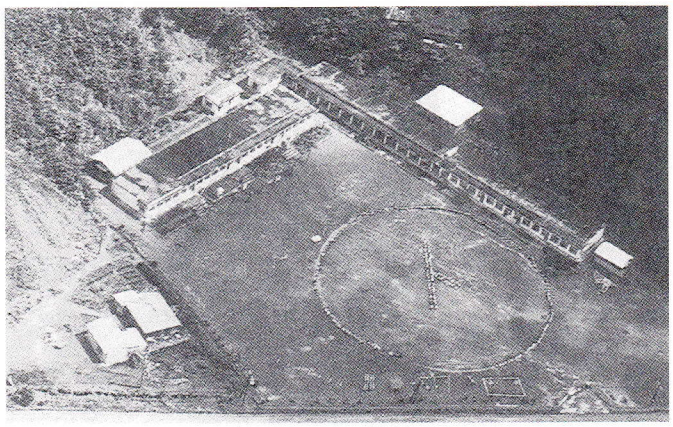
５月　校庭拡張のために栄　正三氏より田を三畝寄贈される

34年２月２日　国庫補助により小学校のブロック校舎（73坪）が完成する

昭和36年７月６日　義宮様が御来村、内海のほとりで御昼食、蝶の採集をされる

９月　台風18号（第二室戸台風）により木造168坪，便所19坪，宿直室給食室が全壊の被害を受ける

12月19日　木造仮校舎（68坪）が完成する



昭和37年頃の学校全景

38年３月15日　中学校ブロック校舎（155.5坪）が完成する
特別教室が造られる

40年10月　校庭拡張・ブロック塀・校門が出来上がる

41年６月１日　学校給食を開始する

44年５月31日　屋内運動場（100坪）が完成し内部施設も完成する

45年８月13日　台風９号によりブロック塀が全壊する

47年３月　特別教室（75坪）が完成する

48年12月　奄美大島復帰20周年記念美術展で学校賞を受賞する

49年10月　体育倉庫と付属便所が完成する

51年４月　鉄筋コンクリートの給食室（81平方メートル）が完成する

52年２月　小学校特別教室（鉄筋2階4教室）が完成する

54年２年24日　東城校の設立60周年記念式を挙行する

54年６年21日　奄美大島中学校総合体育大会軟式庭球（男子）で団体優勝する

54年11月７日　プール（6コース）が完成する

昭和55年５月26日　中学校の体育館（629平方メートル）が完成する
55年11月18日　むし歯予防実践推進校・村体育中心校としての研究を公開する
56年12月４日　奄美群島幼小中学校図画作品展で学校賞を受賞する
57年６月15日　奄美大島中学校総合体育大会軟式庭球（男子）で団体・個人の部で優勝する
７月　鹿児島県中学校総合体育大会軟式庭球（男子）で３位入賞する
58年２月５日　鹿児島県ＰＴＡ連合会に委嘱されたＰＴＡ活動を開始する
６月16日　奄美大島中学校総合体育大会軟式庭球（男子）とバレーボール（女子）で共に優勝する
11月11日　東城小中学校ＰＴＡが全国表彰を受ける
12月８日　奄美群島幼小中学校図画作品展で学校賞（小学校）を受賞する
12月26日　県スポーツ活動団体賞を受賞する
59年12月10日　奄美群島幼小中学校図画作品展で学校賞（小学校）を受賞する
12月25日　県スポーツ活動団体賞を受賞する
60年11月10日　ハブ咬傷予防及び駆除ポスターで学校賞（中学校）を受賞する
12月10日　奄美群島幼小中学校図画作品展で奨励賞（小学校）を受賞する
61年11月５日　地区特別活動の研究を公開する
12月10日　奄美群島幼小中学校図画作品展で奨励賞（中学校）を受賞する
62年10月３日　第35回大島地区理科研究記録展で学校賞（小・中学校）を受賞する
62年12月21日　第26回奄美群島幼小中学校図画作品展で優良校（小学校）に選ばれる
昭和63年10月20日　第20回サンライフ南日本花壇コンクールに入選する
11月15日　「山坂達者」実践推進の体育中心校としての研究を公開する
平成１年２月10日　小学校の体育館の床を全面的に張り替える
４月21日　ふるさと創生事業によりパソコン１台を導入する
９月15日　三太郎バイパス開通記念行事のスタル太鼓に参加する
２年１月16日　奄美群島幼小中学校図画作品展で優良校（小・中学校）に選ばれる
９月18日　台風19号による床上浸水（70センチ）で大きな被害を受ける

台風19号による校庭浸水

10月22日　第22回南日本花壇コンクールに入選する
３年４月６日　初めて複式学級となる（小３・４年）
10月23日　第23回南日本花壇コンクールに入選する
４年10月８日　第44回大島地区理科研究記録展で学校賞（小学校）を受賞する
10月11日　第35回大島地区児童生徒作文コンクールで学校賞（中学校）を受賞する

平成５年１月18日　第31回奄美群島幼小中学校図画作品展で学校賞（中学校）を受賞する

３月15日　中学校の２階建て新校舎が完成する

６年２月28日　小学校の２階建て新校舎が完成する

７月30日　裏庭に農園を造成，裏山のサーキットコースを補修する
「読書の広場」を造成する

12月３日　新校舎落成記念式と祝賀会を挙行し、記念事業として学校案内標柱の設置・校庭に芝植え・生活科砂場及びブーゲンビリア棚作り等を行う

７年２月14日　県グリーンキャンパス事業として中庭と中池を造成する

５月30日　奄美大島ＰＴＡ連絡協議会よりＰＴＡ活動で表彰される

12月２日　県ＰＴＡ活動研究を委嘱され公開する

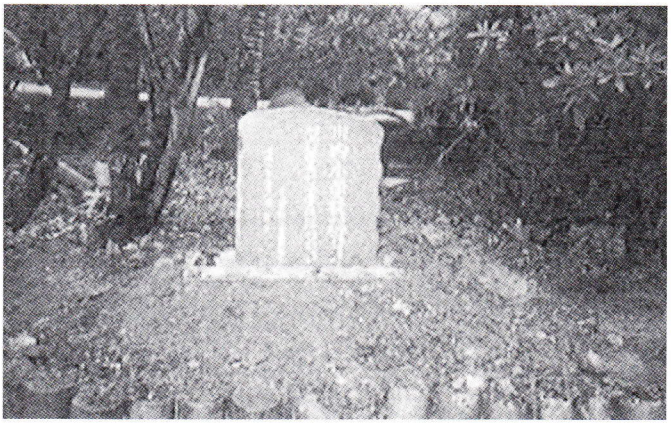
12月18日　県立図書館から読書推進キャンペーン標語で学校賞（小学校）を受賞する

８年１月31日　第34回大島群島幼小中学校図画作品展で学校賞(中学校）を受賞する

６月14日　第28回奄美大島中学校総合体育大会バレーボールで女子が第３位(県体出場）となる

８月８日　「川内小学校跡」「川内簡易科小学校見里分教室跡」「東仲間尋常小学校跡」「城尋常小学校跡」「城尋常小学校和瀬出張所跡」等の各学校跡に記念碑が建立される

10月９日　第39回大島地区児童・生徒作文コンクールで学校賞を受賞する



川内小学校跡碑

平成８年10月23日　南部大島中学校バレーボール大会で優勝する

12月25日　新校舎落成記念・創立120周年記念誌を発行する

新校舎落成式祝賀会

９年１月10日　鹿児島県教育公務員弘済会主催教育論文「個性を伸ばす創造性豊かな教育の実践」で最優秀賞を受賞する

２月19日　創立120周年の記念植樹を行う（グランド周辺にイペー・ピンクテコマ・ポリビアデイゴなど合計84本）

10年10月25日　理科作品展で学校賞（中学校）を受賞する

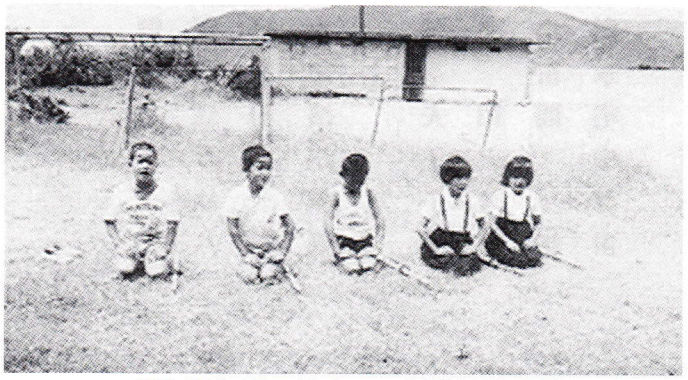
11年４月６日　５・６年生が複式学級となり４学級編成となる

９月16日　大島地区児童・生徒作文コンクールで学校賞（小学校）を受賞する

平成12年１月13日　大島群島幼小中学校図画作品展で学校賞(中学校）を受賞する
６月14日　奄美大島中学校総合体育大会のバレーボールで男子２位・女子３位となる（県大会へ出場）
10月17日　大島地区道徳教育研修会の会場となる
12月８日　卒業生の城山英太郎氏がグランドピアノを寄贈する
13年１月12日　奄美群島幼小中学校図画作品展で学校賞（中学校）を受賞する
３月26日　奄美大島中学校バレーボール大会で男子が優勝する
14年１月11日　奄美群島幼小中学校図画作品展で学校賞（中学校）を受賞する
２月11日　県小学校書写コンクールで学校奨励賞を受賞する
９月21日　グランドを全面改修整備する
12月22日　奄美大島中学校新人バレーボール大会で男子が優勝する
平成15年２月４日　奄美群島幼小中学校図画作品展で学校賞を受賞（中学校）する
４月20日　北大島地区中学校バレーボール大会で男子が優勝する
６月４日　奄美大島中学校総合体育大会のバレーボールで男子が優勝する
11月15日　南部大島中学校バレーボール大会で男子・女子が優勝する
16年２月５日　奄美群島幼小中学校図画作品展で学校賞（中学校）を受賞する
２月11日　県小学校書写コンクールで学校奨励賞を受賞する
６月18日　奄美大島中学校総合体育大会のバレーボールで男子が準優勝する
７月２日　奄美大島中学校総合体育大会の相撲で準優勝する

和瀬分校の沿革

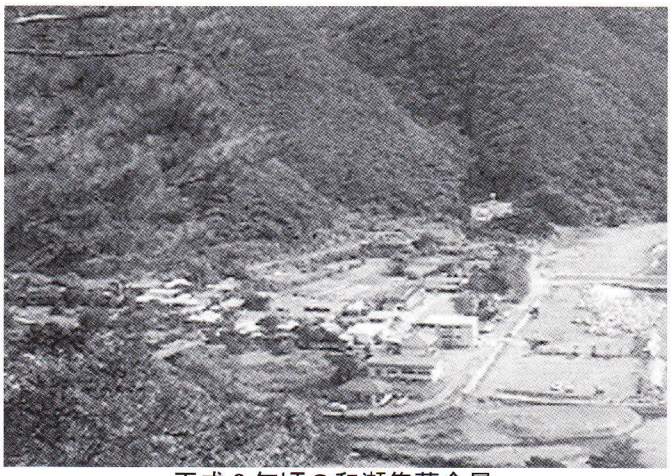
明治44年４月１日　城尋常小学校の出張所として、和瀬川西岸の田中省三氏の家を借用して４学年を１学級として創立される
９月１日　和瀬川下流西岸のミゾリ（三取）に和瀬村民により新校舎が建てられる
大正７年４月１日　東城尋常小学校の創設に伴い、現在地に移転して和瀬分教場と称される
昭和13年８月　和瀬分教場が和瀬分校と改称される
28年９月　校庭を約70坪拡張する
29年　石垣塀を造り職員室を改築する
35年２月　ブロック校舎を新築する
37年４月　校舎拡張のための国有地（約80坪）の払い下げが完了する
昭和41年６月　完全給食を開始する
51年９月　台風17号により、給食室が全壊窓ガラスが250余枚破損する
52年１月　災害救助国庫補助によりブロック建て給食室が完成する
53年３月　教員住宅が完成する
校庭を拡張し防風壁が完成する


昭和53年頃の校庭での剣道練習風景

59年４月	在校生が転居し、入学生０になり和瀬分校が休校となる
61年４月	新入生２名を迎え、和瀬分校が再開する
昭和62年４月	新入生２名を迎え、１・２年計４名（複式学級）となる 国旗掲揚台が完成する
63年４月	新入生１名を迎えて１学級増える。１・２年計３名（複式），３年１名（単式学級）となる
63年５月	校舎前面の花壇を整備する
平成１年４月	新入生１名を迎え、１・２年計２名（複式），３・４年計３名（複式）となる
２年４月	本校５年生へ進級１名，新入生１名，１・２年計２名（複式），３・４年計３名（複式）となる
３年４月	本校５年生へ進級１名，沖永良部島へ転校１名，新入生１名，１・２年計２名（複式），３・４年計２名（複式）となる
10月	給食室と本校舎の間に屋根付き渡り廊下が完成する
４年４月	本校５年生へ進級１名，２年１名（単式），３・４年計２名（複式）となる
８月	台風10号により職員室窓ガラスが破損し諸帳簿に被害がでる
５年４月	本校５年生へ進級１名，新入生１名，横浜より３年生へ転入生１名，１年１名（単式），３・４年計３名（複式）となる
６年２月	トイレを改造する 倉庫が完成する
４月	本校５年生へ進級１名，新入生１名，１・２年計２名（複式），４年計２名（単式）となる
12月	和瀬分校の案内標柱を建てる
平成７年１月	校庭のフィールド内にひめ芝を植え込む

ひめ芝植え込み作業

平成７年２月	神戸より４年生へ転入生１名を迎える
４月	本校５年生へ進級３名，新入生２名，１・２年計３名（複式），３年計１名（単式）となる
８年４月	新入生１名，１・２年計３名（複式），３・４年計２名（複式）となる



平成８年頃の和瀬集落全景

９年４月	本校５年生へ進級１名，新入生１名，１・２年計２名（複式），３・４年計３名（複式）となる
７月	日南市より１年と２年へ各１名が転入学する
10年４月	本校５年生へ進級１名，新入生２名，１・２年計４名（複式），３・４年計４名（複式）となる

平成11年２月　鹿児島市へ２年生と３年生の各１名が転校する

４月　本校５年生へ進級２名，新入生３名，鹿児島市より２年生へ転入生１名，１・２年計６名（複式），３・４年計２名（複式）となる

９月　トイレが水洗となる
パソコンが２台設置される

12年４月　本校５年生へ進級１名，新入生なし，２年３名（単式），３・４年計４名（複式）となる

平成13年４月　本校５年生へ進級１名、新入生１名（単式），３・４年計６名（複式）となる

14年４月　本校５年生へ進級３名，新入生なし，２年１名，４年３名，計４名（複式）

15年４月　本校５年生へ進級３名、新入生なし，２・３年各１名の計２名（複式）となる

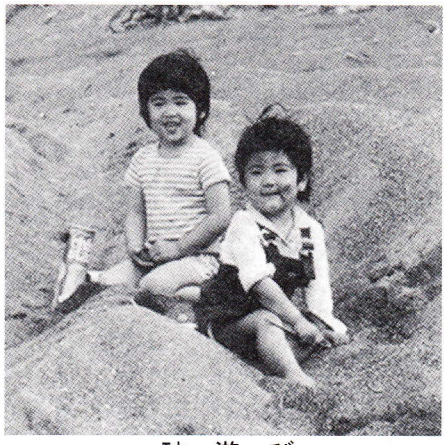
16年４月　新入生なし，４年１名（単式）となる

昭和50年（1975）頃の和　瀬

悪　払　い

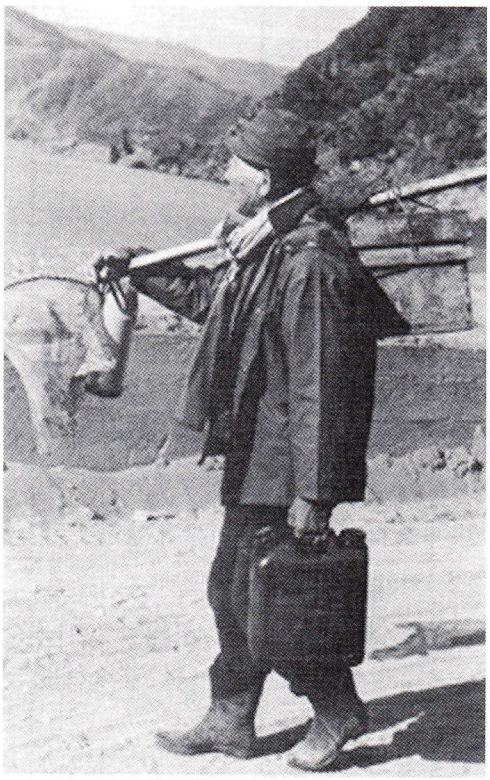
インキヨの墓

か　ご　め


砂　遊　び

潮　は　ね

浜と市方面


鯛釣りへ

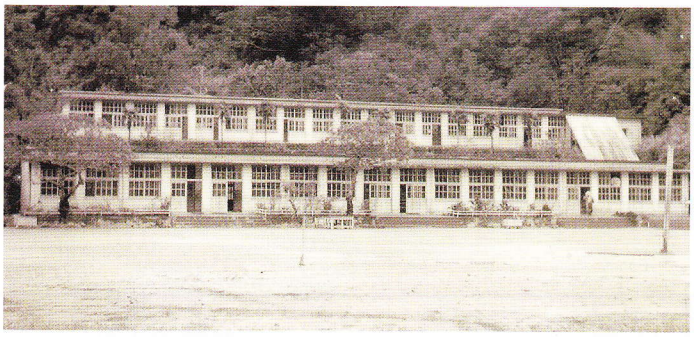
○　歴代校長

小学校				中学校			
代	氏　名	任命年月日	在職期間	氏　名	任命年月日	在職期間	備　考
1	栄　能義（のうよし）	大正７年５月20日	不明				
2	林　純義	不明	〃				
3	喜　幸和賀	〃	〃				
4	竹田　房徳	大正14年３月16日	７年１カ月				
5	安田　義保	昭和７年４月１日	１年				
6	森　則澄	８年４月１日	２年				
7	滝　純俊	10年４月１日	５年				
8	高田　益忠	15年４月１日	４年				
9	大原　吉与	19年４月１日	２年				
10	弓削　辰造	21年４月１日	３年	弓削　辰造	昭和23年４月１日	３年	小中兼任
11	南郷　善照	24年４月１日	１年	南郷　善照	24年４月１日	１年	〃
12	井原　清寿	25年４月１日	１年７カ月	井原　清寿	25年４月１日	４年	26年10月31日まで小中兼任その後は中学校専任となる
13	田畑吉之助	26年10月31日	５カ月				
14	柳瀬　賢良	27年４月１日	２年				
15	新納　定明	29年４月１日	１年	竹　園部	29年４月１日	３年	30年４月１日から小中兼任
16	竹　園部	30年４月１日	２年				
17	屋宮　為市	32年４月１日	４年	屋宮　為市	32年４月１日	４年	小中兼任
18	沼津　忠義	36年４月１日	４年	沼津　忠義	36年４月１日	４年	〃
19	荒田　兼良	40年４月１日	４年	荒田　兼良	40年４月１日	４年	〃
20	前岡　哲夫	44年４月１日	３年	前岡　哲夫	44年４月１日	３年	〃
21	吉田　岡玄	47年３月28日	３年	吉田　岡玄	47年３月28日	３年	〃
22	大山　安弘	50年４月１日	３年７カ月	大山　安弘	50年４月１日	３年７カ月	〃
23	永田　文男	53年10月21日	７カ月	永田　文男	53年10月21日	７カ月	〃
24	山田　勝蔵	54年５月16日	４年５カ月	山田　勝蔵	54年５月16日	４年５カ月	〃
25	岩元　幸男	58年11月１日	２年４カ月	岩元　幸男	58年11月１日	２年４カ月	〃
26	福島　保	61年４月１日	４年	福島　保	61年４月１日	４年	〃
27	富岡　光則	平成２年４月１日	２年	富岡　光則	平成２年４月１日	２年	〃
28	中島　隆治	４年４月１日	２年	中島　隆治	４年４月１日	２年	〃
29	田中　國重	６年４月１日	３年	田中　國重	６年４月１日	３年	〃
30	佐藤　欣吾	９年４月１日	３年	佐藤　欣吾	９年４月１日	３年	〃
31	重久　和男	12年４月１日	３年	重久　和男	12年４月１日	３年	〃
32	川畑　逸郎	15年４月１日		川畑　逸郎	15年４月１日		〃

昭和23年４月1日より
新制中学校を併設する

住用村立 住用小学校

現在の校舎（平成16年６月20日撮影）



旧校舎（昭和31年４月29日撮影）

1　校歌

校　　歌

作詩 盛島秀史
作曲 福島豊彦

1　黒潮たぎる　奄美島
　緑さやけき　住用の
　山ふところに　そびえ立つ
　希望のいらか　常しえに
　これぞ栄えある　我が母校

2　延々悠々　迫らざる
　住用川の　清流に
　心をみがき　身を鍛え
　行く手明るき　理想郷
　求めてむつむ　我が母校

3　見よ山河に　新しき
　世紀の光り　かがよえり
　勤労至誠の　旗のもと
　若人われら　共に立つ
　ああたたえなん　我が母校

2　校区・学校の概要

本校は、奄美大島本島中央部に位置し、琉球アユのいる住用川と役勝川やマングローブの群生する深い入江の住用湾など美しい自然を校区にして、昭和12年４月山間尋常高等小学校・西仲間尋常高等小学校・同役勝分教場の３つが合併して現在地の住用尋常小学校となりました。

昭和42年には、それまでの中学校併設校から個別の住用小学校・住用中学校としてそれぞれ独立して新たな道を歩み、これまで数々の輝かしい歴史と伝統を築いてきました。

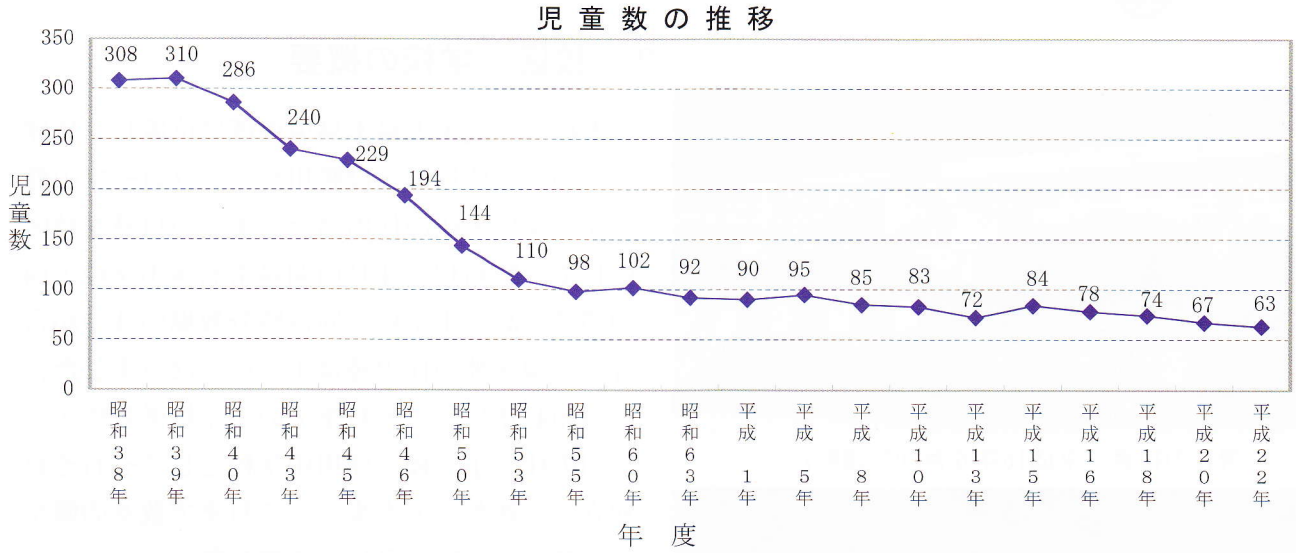
校区は、石原・西仲間・役勝・山間・戸玉など７集落から成り、校区民は人情味に厚く教育熱心な地域で、学校教育には特に協力的で愛校心も非常に強いところです。

子どもたちも明るく活気があり大変素直です。特にスポーツには熱心で水泳・野球・バレー・相撲スポーツ少年団には多くの子どもが入団して活動しています。中でも水泳は、これまで輝かしい記録と伝統を残しており、昭和56年県教育委員会から、昭和62年には日本水泳連盟から、それぞれ学童水泳優秀校として表彰を受けています。

本校の現在の児童数は、全校で男子33人・女子41人の計74名で、人口の過疎化と家族の少子化によって児童数の減少は本校も例外ではなく、昭和39年の310人から減少の一途を続けてきましたが、近年はやや横ばい状態のようです。

昭和31年に建てられた校舎も大変古くなり、平成７年３月には生涯学習社会にあって、文化の中心的役割の学校を展望し、理想的な機能を備えた超近代的なホテルのような白亜の殿堂、２階建ての住用小学校新校舎が完成し、教師と児童が一体となって地域の特色を生かした学校づくりを進め、現在に至っています。

3　児童数の推移



4　学校教育目標

学校経営の基調

教育関係法規に基づき、県及び村教育委員会の施策に即し、生涯学習の観点に立って、住用のよき教育風土の中で、学校教育目標の達成に努める。

教育課題

①心に届く生徒指導・道徳教育の充実等による思いやりのある心豊かな子供の育成
②体験を重視した授業の工夫と基礎的・基本的事項の徹底による学力の定着・向上
③心身の健康・安全に対する意識の高揚と気力・体力づくりの充実
④地域の人材活用と教材化による地域にねざした教育活動の推進

学校教育目標

心豊かで、自ら考えて行動できるたくましい住用の子どもを育てる。

校訓

やさしく・かしこく・たくましく

めざす子ども像

- (す) すなおで思いやりのある子ども
- (み) みんなで助け合い頑張る子ども
- (よ) よく学び、考えて行動できる子ども
- (う) うまずたゆまず心身を鍛える子ども

めざす教師像

○子どもを伸ばそうとする情熱を持ち、子どもと共にある教師
○学ぶ者のみが教え得るという信念の基に自己研鑽に励む教師
○組織の一員としての自覚に立ち、他の教師と協調する教師
○保護者や地域社会から信頼される教師

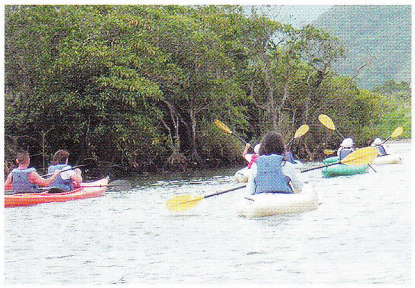
経営の方針

①心身共に健康で人間としての調和のとれた児童の育成
②一人一人の児童のよさや可能性を伸ばし「生きる力」の育成
③心の教育（生命尊重や人権同和教育など）の推進
④児童・保護者・学校・地域社会の実態に即した教育の推進
⑤「開かれた学校づくり」と「特色ある学校づくり」の推進

めざす学校像

○　明るいあいさつと楽しさのある学校
○　けじめのある落ち着いた学校
○　きれいで、みんなが協力する学校

5　特色ある教育活動

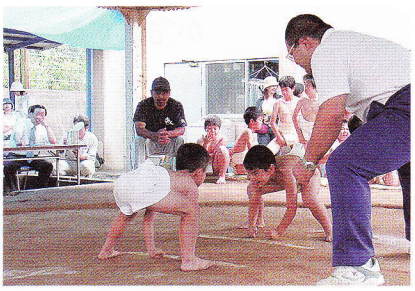

カヌー体験活動

マングローブ探検

すくすく農園活動

住用の園（ボランティア活動）

ハブ予防安全教室

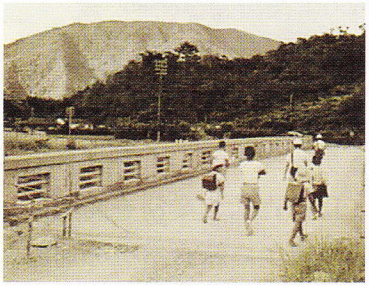

相撲大会

6　学校の沿革

明治８年　山間郷校ができる
12年　下等小学校として発足する
14年　西仲間に分校を設置する
19年　西仲間尋常小学校を設置する
35年頃　西仲間尋常高等小学校となる
43年　役勝分教場を設置する
昭和10年　住用青年学校を併置する
12年４月１日　住用尋常高等小学校を設立する（西仲間尋常高等小学校・同役勝分教場・山間尋常高等小学校を合併）
９月27日　校舎落成式と開校式を挙行する
16年４月１日　住用国民学校と改称する
23年４月１日　６・３・３制実施で住用小学校と改称する
31年４月29日　上段ブロック校舎が完成する
32年９月27日　創立20周年記念式典を挙行する

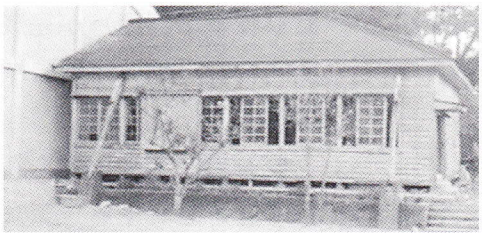
昭和三十六年度住用小・中学校（併設）の職員

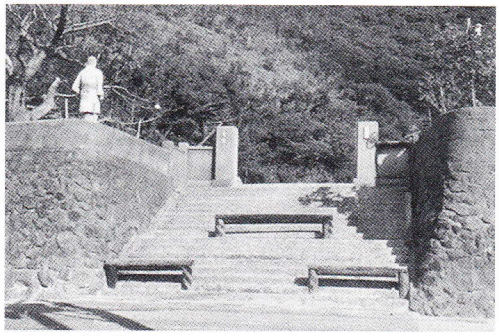
昭和37年６月30日　新制中学校校舎が完成し７月１日に新校舎に移る


昭和37年、柳橋を渡って西仲間方面へ下校する子供たち

41年５月６日　屋内体育館が完成する
５月　給食室が完成し６月１日より完全給食を実施する
42年４月１日　住用小・住用中がそれぞれ独立校となる

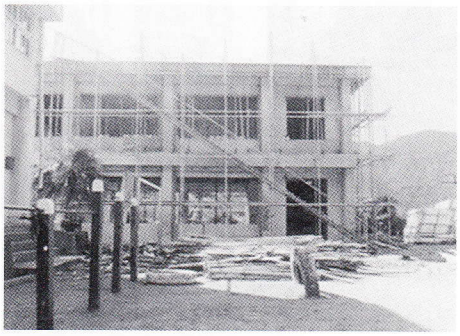
昭和四二年独立当時の校舎と体育館


当時の体育館横の保育所

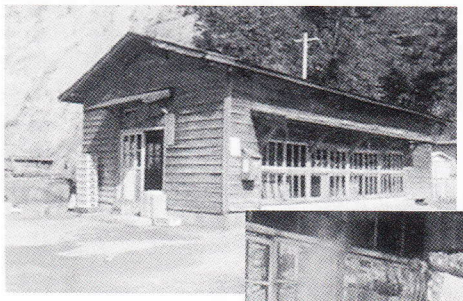


校門風景（昭和四六年）

昭和51年３月　特別教室（鉄筋２階建４教室）が完成する



建設中の特別教室校舎



昭和５２年給食室と調理風景

52年３月30日　給食室が完成する（４月16日に移転、18日に給食業務を開始）

31日　西側の側溝上に給食室への通路が完成する（18日使用開始）

53年12月26日　体育館にステージ・玄関・渡り廊下を増設する

54年２月４日　裏山にサーキットコースが完成する

55年４月　渡り廊下（83m）が完成する

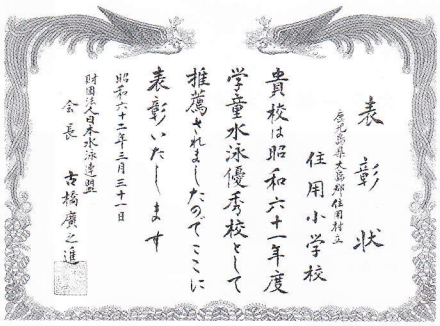
56年６月　校門に安全柵・正門に門扉を設置する

57年１月　上校舎前に手洗い場を新設する

９月　大時計を設置する

昭和61年12月５日　県の「山坂達者」推進校・村の体育中心校としての研究を公開する

62年２月22日　昭和61年度学童水泳優秀校として日本水泳連盟に表彰される



表彰状

鹿児島県大島郡住用村立
住用小学校

貴校は昭和六十一年度
学童水泳優秀校として
推薦されましたので ここに
表彰いたします

昭和六十二年三月三十一日
財団法人日本水泳連盟
会長　古橋廣之進

日本水泳連盟よりの表彰状

62年11月28日　創立50周年記念式典と祝賀会を挙行する

63年７月８日　大島地区道徳教育研修会の会場となる

９月　上段校舎の便所を水洗化する

水洗化されたトイレ

平成１年８月　放送施設を整備する

３年２月　校舎側にフェンスを設置する

３月　住用村算数研究協力校として発表する

４年４月４日　４年・５年度地区研究協力校となり、生活科の研究に取り組む

５年９月６日　学校給食用の牛乳をＬＬ牛乳から普通牛乳に切り替える

11月19日　地区同和教育指導者研修会の会場校となる

６年２月15日　地区生活科研究協力校の研究会の会場となる

８月６日　新校舎の建築工事を開始する

７年２月20日　新校舎が完成し、３月６日に移転する

新校舎の建築風景

旧校舎から望む新校舎

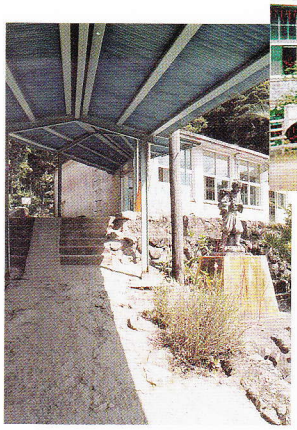
平成７年３月12日　体育館裏山に落石防護網を設置する

20日　体育用の倉庫が完成する

25日　旧校舎２棟を解体する

▲ 解体前の旧校舎

▲　旧校舎とのお別れ会



◀
給食室への渡り廊下と二宮尊徳碑

７年８月22日　特別教室の改修工事が完了する

10月16日　上段敷地への階段を設置する

平成７年10月20日　新校舎落成記念事業として池・築山が完成する

23日　門柱の改修工事が完了し門扉が完成する

11月18日　新校舎落成記念式典・新校舎落成記念祝賀会を開く

校舎落成記念式典

７年12月２日　県ＰＴＡ活動委嘱研究を公開する（ＰＴＡ総務部が研究を発表）

８年１月22日　奄美群島図画美術作品展で学校賞を受賞する

３月２日　新校舎落成記念誌を発刊する

19日　給食室への渡り廊下が完成する

５月11日　校庭西側に花壇を設置する

９月２日　特殊学級を設置する（職員１名が配置増）

９年２月16日　体育館にステージ帯幕を設置する

28日　排水路の設置工事、上部校庭への階段設置工事が完了する

９月５日　サーキットコースの補修工事が完了する

10年９月24日　大島地区理科研究記録展で学校賞を受賞する

12月25日　長野県小川小学校との交流体験学習を開始する

12年１月17日　上部河川の三面張り工事が終了する

３月21日　卒業記念タイムカプセルの収納庫が完成する

10月３日　上部河川の三面張り２期工事が終了する

13年８月20日　１階トイレの改修工事を行う

平成13年10月６日　上部河川の三面張り３期工事が終了する
14年８月９日　地域ＬＡＮの設置工事を行う
31日　校舎前の玉石除去作業を行う
15年１月15日　体育館の防水工事を行う
３月８日　給食室への渡り廊下を撤去する
４月23日　人権の花運動の開講式を行う
８月24日　校庭側の玉石除去作業を行う
平成15年11月17日　人権の花運動の閉講式を行う
16年１月７日　給食室の換気扇を修理し水道パイプの取替工事を行う
７月14日　体育館に舞台幕を新調して取り付ける
10月22日　体育館の内壁を塗装する
28日　地区指定「基礎学力向上」の公開研究会を行う

7　歴代校長一覧

代	氏　名	在任期間	出身地	代	氏　名	在任期間	出身地
1	重村　中久	昭12年４月～昭15年３月	知名町	12	前田　公正	昭46年４月～昭50年３月	住用村
2	塩原　利寛	昭15年４月～昭18年３月	喜界町	13	嘉納　大信	昭50年４月～昭54年３月	瀬戸内町
3	喜田　幸和賀	昭18年４月～昭22年３月	喜界町	14	久　善造	昭54年４月～昭58年３月	天城町
4	有田　清与	昭22年４月～昭24年３月	名瀬市	15	秋田　八吉	昭58年４月～昭61年３月	喜界町
5	今井　島忠	昭24年４月～昭26年９月	和泊町	16	栗山　貞次	昭61年４月～平１年３月	宮之城町
6	田島　実迪	昭26年10月～昭30年３月	喜界町	17	福田　義澄	平１年４月～平３年３月	瀬戸内町
7	新納　定明	昭30年４月～昭32年３月	和泊町	18	碇　敏憲	平３年４月～平７年３月	住用村
8	長田　重徳	昭32年４月～昭35年３月	宇検村	19	福　章夫	平７年４月～平10年３月	伊仙町
9	鯵坂　晶信	昭35年４月～昭38年３月	川辺町	20	池山　修弘	平10年４月～平13年３月	天城町
10	佐藤　太助	昭38年４月～昭42年３月	名瀬市	21	福山　成昭	昭13年４月～昭16年３月	大和村
11	福山　功	昭42年４月～昭46年３月	住用村	22	川畑　力雄	昭16年４月～	笠利町

8　現在の住用小学校の様子

校庭風景と走る子どもたち

新校舎の前面と池